

令和8年6月1日

松本市議会

議長 阿部 功佑 様

市役所新庁舎建設特別委員長 犬飼 信雄

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会において行政視察を実施しましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

1 期日

令和8年5月12日（火）、13日（水）

2 参加者

市役所新庁舎建設特別委員15人、理事者2人 事務局随員2人 合計19人

3 視察先

- (1) 東京都国分寺市
- (2) 東京都中野区

4 概要

(1) 東京都国分寺市

ア 日時 令和8年5月12日（火） 午後1時30分～午後3時45分

イ 場所 国分寺市役所

ウ 対応者

国分寺市議会議長 尾沢 しゅう 氏

総務部長 石丸 明子 氏

議会事務局長 佐藤 久美子 氏

総務部契約管財課長 佐藤 義文 氏

エ 内容

国分寺市の新庁舎は、令和6年に竣工し、令和7年1月に供用開始されました。地下1階、地上5階建てで、延べ床面積は約18,258㎡です。構造は鉄骨鉄筋コンクリート造の免震構造で、環境性能はCASBEE 最高ランク取得、ZEB Ready 認証取得、一次エネルギー消費量は基準の62%に削減された先進的な省エネ建築です。

1階には市民窓口を中心としたワンストップ窓口と、武蔵国分寺七重塔の復元模型を備える広いロビーが設けられ、来庁者の誘導と親しみやすさが確保されていま

す。2階は教育・福祉部門、3階は常設の防災拠点として災害対策本部及び建設部門、4階は政策・総務・広報等の内部管理部門が配置され、5階は議会棟と「木漏れ日テラス」と称する展望デッキが備えられています。

建築にあたっては、フリーアドレス制の執務環境やリフレッシュルームの設置、障害者・高齢者に配慮したバリアフリー駐車場60台（障がい者用3台）をタイムズ24が運営し、来庁者への割引制度も実施しています。発注方式は設計施工一括方式（基本設計分離型／公募型プロポーザル）を採用し、工事費は約98億円です。

外装色は「木漏れ日グリーン」とし、地域の小中学生がベンチや壁画をデザインするなど市民参加型の取り組みが行われ、クラウドファンディングにより約2,860万円の寄付金が集められた点も特筆すべき点です。

(2) 東京都中野区

ア 日時 令和8年5月13日（水） 午前9時30分～午前11時40分

イ 場所 中野区役所

ウ 対応者

中野区議会議長 森 たかゆき 氏

企画部区政経営推進担当課長 青木 大 氏

企画部企画課区政経営推進係長 小川 大介 氏

エ 内容

中野区の新庁舎は令和6年5月に供用開始し、地下2階・地上11階建て、延べ床面積は約47,276㎡、敷地面積は約8,557㎡です。免震構造を採用し、主構造は鉄骨造で一部鉄筋コンクリート・鉄骨鉄筋コンクリートが使用されています。環境性能はCASBEE最高ランクとZEB Ready認証を取得し、執務フロアにはエコボイドと呼ばれる大規模吹き抜け空間を活用した自然換気・空調システムが備えられています。

1階はカフェやコンビニ、イベントスペース「ナカノバ」等を備える公共スペースとして設計され、区民が自由に利用できる場となっています。2階・3階は各課の専用窓口、4階以上はフロア共用窓口とスマート窓口を設け、来庁者が自ら発券し職員が内部で情報を引き継ぐ仕組みが導入されています。6階・7階は行政・災害対策本部、10階・11階は区議会と屋上庭園を配置し、シティホール的な機能を果たす形となっています。

働き方改革に向けた施策としては、フリーアドレス制とActivity-Based Working (ABW)を導入し、完全ペーパーレス化を実現した上でMicrosoft 365とTeams電話を活用し、BYODを推進しています。また、窓口と執務室は徹底的に動線を分離し、ICカードによる入退室管理でセキュリティを高めています。

発注方式は基本設計を自治体が直営で行い、実施設計・施工を同一業者に委託する設計施工一括方式（基本設計分離型）で、建設費は約259億円。駐車場は来庁者用に53台（障がい者用2台）を確保しています。

5 所感

(1) 東京都国分寺市

国分寺市庁舎は、人口約13万人に対し、延べ床面積が大きく設計されているため、将来的な機能拡張や防災拠点としての余裕が確保できる有益な要素であると評価できます。一方、ワンストップ窓口に関しては、1階と2階の窓口連携が不十分で手続きの流れが円滑でないとの説明があり、設計段階での動線再検討が必要であると考えられます。

市民参加の面では、子どもがデザインに関わることで地域への愛着が醸成され、クラウドファンディングの資金調達は住民参加型での資金調達の好事例であり、本市でも同様の手法は有効であると考えられます。

環境・省エネに関しては、ZEB Ready 取得は先進的であるものの、運用時の維持管理コストや長期的なエネルギーパフォーマンスの検証を継続的に実施すべきと考えられます。

また、アクセシビリティについては高齢者・車いす利用者向けのサインや段差解消が一定程度配慮されており、本市においても参考とするとともに、利用者アンケート等で実際の使用感を把握していくことも必要だと考えられます。さらに、常設の災害対策本部と余裕のあるスペースは、本市の新庁舎建設において有用なベンチマークとなり得ると考えられます。

(2) 東京都中野区

本庁舎の1階に設置された「ナカノバ」や「シェアノマ」等の多機能スペースは、多くの利用者が集まり、区民のコミュニティ形成に寄与しており、本市も参考にすべきであると感じました。

また、スマート窓口と完全ペーパーレス化は業務効率とセキュリティの向上に寄与していますが、職員のデジタルリテラシー向上や変化に対する抵抗感を緩和するための研修が不可欠であると考えられます。

フリーアドレス制と ABW は柔軟な働き方を提供する一方で、導入するためには部門間の情報共有やチームビルディングに新たな仕組みが必要となり、組織的なサポートが求められます。

来庁者と職員の動線分離は混雑緩和と安全性の向上に有効と考えられますが、新庁舎全体としてバックオフィスの役割が大きくなるおそれがあるため、上記のような多機能スペース等の導入を検討し、本市の市役所新庁舎建設基本計画改定版が掲げる「新庁舎のあり方・導入機能」のひとつである「コミュニケーションが芽生える庁舎」をどう実現していくのか考えていく必要があると感じました。

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和８年５月１２日(火)・１３日(水)
視 察 先 及び 視察事項	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	市役所新庁舎建設について

１ 東京都国分寺市役所新庁舎建設について

実施日時 ５月１２日（火）午後１時３０分～３時４５分

(１) 視察の視点

松本市役所新庁舎建設は建設基本計画見直しを市役所新庁舎建設特別委員会が了承、建設に向け工事発注等の取組みが進められている。特別委員会においては、「市民に身近な市役所づくり」を視点に置いた本庁舎建設に向けた具体的な取組みが行われることを踏まえ、近年建設された事例を調査したうえで理事者側の取組みに対応する必要がある。

(２) 国分寺市役所市庁舎の概要

ア 建替え経過

昭和３８年建設の市庁舎の耐震性能の課題から一部解体・閉鎖による分散化の解決策として新庁舎を建設したもの。建設場所は国分寺駅北口再開発の完了を待って、都有地を買収し移転新築を行ったもの。平成３１年建設基本構想策定、令和元年移転地決定、令和２年建設基本計画策定、令和３年 DB による事業者選定と基本設計完了、令和４年実施設計・工事着手、令和６年竣工

イ 新庁舎の概要

(ア) 移転建設場所：西国分寺駅南、都立武蔵国分寺公園隣接地 12,623.72 ㎡

(イ) 規模等：地下１階・地上５階、18,257.56 ㎡、鉄骨鉄筋コンクリート造

ウ 新庁舎の特徴

(ア) 機能

- ・市民利用の多い窓口を低層階（１・２階）に配置しワンストップ窓口化
- ・市民利用優先のため部単位の配置を崩している
- ・地下駐車場によるアクセス性（民間事業者へ管理委託）
- ・フリーアドレスによる執務環境とリフレッシュルーム
- ・庁舎セキュリティ

(イ) 災害対応

- ・災害対策本部の常設
- ・国分寺消防署と隣接など公共施設の集積地

(ウ) その他

- ・最上階議会関係フロアは市民に開放し屋外空間として設けた「木漏れ日テラ

ス」は、とても良い雰囲気となっている。

- ・ 1・2階の執務室に面して中央に設けた待合は、非常に広く開放的で親しみやすい。待合南北に発券機を配置し窓口コントロールを行っている。
- ・ 1階にワンストップ窓口専用カウンターを設け、一か所で複数の手続きが行える計画であったが、2階の執務室との連携は不十分とのこと。

(3) 所感

- ア 人口は12万8千人で庁舎収容職員数785人想定と、人口比率55%収容職員想定87%と本市と基本計画段階から庁舎規模設定が大きく異なっていたが、庁舎規模は21,000㎡と、本市の規模より大きな庁舎であることから、各所に余裕を感じた。
- イ 令和6年に視察した春日部市との比較においても、1,000人収容に対し20,000㎡と本市より庁舎規模が大きく、国分寺市を視察したうえでも本市の想定規模は過少とも判断できる。
- ウ そうした規模感から災害対策本部を常設とするなど、防災拠点として余裕を持たせる意味付けも可能であったと推察する。
- エ 市民サービスにおけるワンストップサービスは、いわゆる対面形式での提供を基本とした考え方であり、多様な手続きを全て一か所の対面で処理することの困難さを実感した。

2 中野区役所新庁舎建設について

実施日時 5月13日（水）午前9時30分～11時40分

(1) 視察の視点

松本市役所新庁舎建設は建設基本計画見直しを市役所新庁舎建設特別委員会が了承、建設に向け工事発注等の取組みが進められている。特別委員会においては、「市民に身近な市役所づくり」を視点に置いた本庁舎建設に向けた具体的な取組みが行われることを踏まえ、近年建設された事例を調査したうえで理事者側の取組みに対応する必要がある。

(2) 中野区役所庁舎の概要

ア 建替え経過

旧庁舎の老朽化に伴う移転新築である。旧庁舎道路を挟んだ北の区有地に建設したもので、中野サンプラザと現庁舎の再開発により生み出す資金を原資とする計画で行ったもの。しかし、中野サンプラザの解体の困難さから再開発計画が中断しているため、資金は借入で調達した。

イ 新庁舎の概要

- (ア) 建設場所：区立体育館隣接地（現庁舎北側）で体育館も移転 8,557.38㎡
- (イ) 規模等：地下2階、地上11階、塔屋1階

延べ床面積 47,275.96 m² (旧庁舎 25,819 m²) 免震構造
鉄骨造 (一部鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造)
基本計画の延べ床面積 44,200 m²

(3) 新庁舎の特徴

ア 中野区の目指すまちの姿 (つながる はじまる なかの) を具現化する庁舎

(ア) 1階をつながる機能として、イベントスペース「ナカノバ」を新しい拠点や交流が始まる拠点として整備、フルオープンの開口部を開けて屋外空間と一体となった利用を可能としている。

(イ) 職員がつながる拠点として、合同部長室を設け個別部長室を廃止し部長間の連携を容易にしている。

イ 耐震・環境・景観

(ア) 特徴的な外壁構造 (環境制御パネル、木立枝葉を表現するデザイン、トリノスと免振による耐震性)

(イ) Z E B R e a d y 認証を取得するため、外壁に加えエコボイドと呼ぶ4階から上層階の吹き抜け空間による空調システム

ウ 執務環境

(ア) フリーアドレスから一歩進めたA B W (アクティビティ・ベースド・ワーキング) という、働く場所と時間を職員が自ら自由に選択できる働き方を導入している。

(イ) その前提として完全なペーパーレス化を図り、Microsoft365を導入し私物端末の業務利用を図りD Xを推進している。

(ウ) 執務室に固定電話はなく、T e a m s 電話に置き換えしているので、執務室はとても静かである。

エ セキュリティ他

(ア) セキュリティは市民と職員の動線を分離し、職務スペースには個人専用のカードリーダーで入室する。

(イ) 1・2階は来庁者が多い窓口を配置し、対面カウンターによるサービスを提供し、3階以上は共用窓口を設け職員が出向いてサービスを提供する方式とし、窓口と執務室を分離している。

(ウ) そのため、対面カウンターを設ける共用廊下スペースの縮小により、その空間を執務に必要な打ち合わせ等の空間として活用している。

(エ) 3階から上層の執務室間への移動は、エコボイド空間に設けた階段を利用する。

(オ) 職員用休憩場所等の空間の充実は、職員専用の移動空間に近い北側に配置している。

オ 発注方式

(ア) 設計施工一括発注方式のうち、基本設計分離型を採用している。理由は、基本設計を直営で行うことにより、発注性能など市が求める根幹部分の確認と施工発注前の段階で金額を確定できたこと。

カ その他

(ア) 基本計画の想定床面積 44,200 m²を 3,000 m²も上回った建設理由は、敷地に対して最大規模で建設することが前提にあり、1階の使い方の柔軟性及び将来の執務空間が不要となった場合にも、民間団体等に賃貸できる可能性があるため、地区計画により容積率を緩和したもの。

(3) 所感

ア 3階以上の共用窓口方式は大いに参考になった。1・2階は狭い行政区域のため、区役所に集中する来客の多い特徴から対面カウンターを増やす必然からとのことだが、数が多少減っても3階以上と同様にはならないと感じた。

イ 共用窓口方式は松本市でも導入可能と判断したが、市民に身近な窓口のサービス対応が示されたうえで検討したい。

ウ 完全ペーパーレス化はやる気があればできる証左と受け止めた。

エ 床面積の決め方は首都圏の中心部に位置するからこそその発想で、本市の参考にならないとともに、空間の余裕と使い方の工夫を基本設計で確かめたい。

オ そのため、基本計画策定段階で設計にて示すとの答弁を確認するうえでも、基本設計分離による設計施工一括方式が望ましいと判断した。

カ 1階の空間は市民の活動スペース、憩いの場として大いに利用されていることを聞いた。シティホールであるとの認識が根拠にあるが、松本市本庁舎はバックオフィス機能が主体でシティホールではないとの認識と受け止めている。視察した空間は本市本庁舎跡地に配置される可能性を感じた。そうであるならば、シティホールとして市庁舎の一部とした機能として、一体で検討する必要性を改めて感じた。今後の展開を見守りたい。

令和8年5月22日

松本市議会議員 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会副委員長 上條 一正

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

令和8年5月12日(火)・13日(水)

視察先

東京都国分寺市

市役所新庁舎建設について

及び

東京都中野区

市役所新庁舎建設について

視察事項

1 東京都国分寺市役所庁舎

内装、外装ともに、必要なものが詰まっていて不要なものが少ない印象。

1階には、住民票やマイナンバーなど市民課や保険年金関連に合わせて、文化、スポーツ関連の部署、2階は障害福祉や高齢福祉、また教育委員会も含めた子ども関連の部署が集まっており、市民のニーズに合わせた窓口設計になっている、市民目線での市役所としてしっかり考えられていることを感じた。

すっきりして無駄のない外観と木調で居心地がよく、最上階（5階）の議場と市民に開かれた木漏れ日テラスもとてもいい雰囲気、議会と市民が繋がりやすい印象。

また、隣の公園と消防署の接続もとても機能的で雰囲気がよく、これまでに視察した市庁舎の中で、一番魅力を感じる庁舎だった。

2 東京都中野区役所庁舎

市民の導線と職員の導線（エレベーター）が完全に分かれていて、職務室の真ん中に繋がっている中階段で職員が移動して対応する設計。

完全フリーアドレス制を導入するにあたり、さまざまな工夫と苦労があったことをお聞きした。

また、役所の課題でもある部局横断を強めるために、部長だけが在籍する部屋が設けられており、必ず週に何回かここで情報共有会議をしているということだが、そこに滞在されている部長は少ない模様。理想の在り方を目指した設計になっていることは随所に感じたが、どこまで機能しているのかは、伝わってこなかった。

3 所感

庁舎のつくり方に、その市が目指す行政の方向性が表れていると感じる。縦割り行政が無くなるような設計はとても大事だが、国分寺市のように、市民に対してそれが伝わるような窓口にすることと、業務を市民に寄り添わせていくことについて、具体的にどのような方法がいいかは、職員にしか分からない面がある。市民目線・民間目線を持った職員を中心に、未来の松本市の庁舎を描いていくことが肝要で、それは議員にも必ず伝わるものではないかと感じるため、若手職員及びこれまで特に市民と接する部署を経験した職員の方々の意見を大事に設計していただきたいと思います。

令和8年5月27日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 中山 英子

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和8年5月12日(火)・13日(水)
視 察 先 及び 視察事項	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	市役所新庁舎建設について

1 東京都国分寺市役所庁舎に関して

- (1) 日時 令和8年5月12日
- (2) 場所 東京都国分寺市泉町2丁目2-18
- (3) 成果及び所感

国分寺市役所旧庁舎は昭和38年に建設されたものであり、平成18年の耐震診断調査において耐震性に疑問があるとの判定を受けた。その後の詳細な検討においても耐震改修による対応は困難と判断され、新庁舎建設へ向けた取組みが進められた。

建設期間中は、市民及び職員の安全確保を最優先に考え、仮設庁舎を整備した上で庁舎機能を移転したとのことであった。視察に際しご対応いただいた尾沢しゅう議長からは、一時的に分散型庁舎に近い運用が行われた時期があったものの、窓口機能の分散によって市民や来庁者の利便性が低下し、不評であったとの説明を受けた。

その後、国分寺駅北口再開発事業の動向等により庁舎建設計画は一度白紙化されたが、市民参加による「アイデアワークショップ」等を重ねながら検討を進め、最終的に現在の泉町の都有地への移転が決定された。

新庁舎では、屋上への太陽光発電設備の設置や実質再生可能エネルギー100%電力等の活用により、庁舎運営におけるCO₂排出量実質ゼロを実現している。また、防災対策室を常設し、平時は研修室として有効活用するなど、限られた空間を効率的に運用する工夫が見られた。さらに、主要な会議室等へのオートロックの導入や、警備業務における警備ロボットの活用など、安全性の向上と人手不足への対応も図られていた。

加えて、地下駐車場は民間事業者であるタイムズに運営を委託し、来庁者には減免措置を設けることで利便性と管理効率の両立を図っていたほか、建設資材には地元の多摩産材を活用するなど、地域資源の利用にも配慮されていた。庁舎内部についても、市民利用の多い部署を低層階へ集約し、1階には市民が利用できる多目的スペースを設置するなど、市民目線を重視した施設配置がなされていた。

今回の視察を通じて、耐震性の確保や防災機能の強化といった庁舎本来の役割に加え、環境性能、運営効率、セキュリティ対策、市民利便性など、多角的な視点から新庁舎整備が進められていることを学ぶことができた。

特に印象的であったのは、仮設庁舎や一時的な分散運用の経験から得られた教訓である。庁舎の分散は施設整備や建替えの過程では避けられない場合もあるが、市民にとっては手続きのために複数の建物を行き来する負担が生じるなど、利便性の低下につながるものが改めて確認できた。本市においても新庁舎整備を検討する際には、建設後の施設計画のみならず、建設期間中の仮庁舎運用や窓口機能の配置について十分な検討を行う必要があると感じた。

また、庁舎整備において市民参加型の検討プロセスを重ねたことは、市民理解の醸成や将来的な利用満足度の向上につながるものと考えられる。本市においても、庁舎が単なる行政事務の場ではなく、市民に開かれた公共空間としての役割を果たせるよう、国分寺市の事例を今後の議論の参考として活かしていきたい。

2 東京都中野区役所庁舎に関して

- (1) 日時 令和8年5月13日
- (2) 場所 東京都中野区中野4丁目11-19
- (3) 成果及び所感

前日に引き続き視察した中野区役所新庁舎は、単なる建替えではなく、行政サービスの提供方法そのものを見直すことを目的として整備された庁舎であり、従来の自治体庁舎の概念にとらわれない様々な取組みが導入されていた。

中野区は東京23区の中でも転出入件数が多く、住民異動に伴う窓口需要が高い自治体である。また、区内には5か所の地域事務所が設置されているものの、区域全体が自転車で概ね30分程度の移動圏内に収まることから、多くの区民が本庁舎を利用しているとの説明を受けた。このような地域特性を踏まえ、新庁舎では来庁者の利便性向上を重視した窓口設計がなされていた。

特に印象的であったのは、全国初の試みとして、来庁者対応を行う窓口エリアと職員の執務エリアを完全に分離したことである。従来の庁舎では、来庁者が担当窓口を探して移動することが一般的であったが、新庁舎では利用目的に応じて職員が来庁者のもとへ赴く仕組みを導入し、「動かない窓口」を部分的に実現していた。これにより、来庁者は目的の窓口を探し回る必要がなくなり、職員側も来客対応のために常時自席で待機する必要がなくなるなど、双方にメリットが生まれているとのことであった。

また、執務環境についても大胆な改革が行われていた。課内でのフリーアドレス制を導入し、従来の課長席も廃止されている。さらに、職員は前日と同じ席で業務を行わない運用としており、組織内のコミュニケーション活性化や柔軟な情報共有を図っているとの説明があった。加えて、来庁者用トイレと職員用トイレを分離したことで、職員同士が安心して自然に顔を合わせる機会が増え、部署を越えたコミュニケーションの促進にもつながっているとのことであった。

デジタル化の推進も特徴的であり、固定電話を廃止して Teams 電話へ移行するとともに、一定のルールのもとで職員の私物端末の業務利用も認めていた。こうした取組みは、働き方改革や業務効率化を進める上で参考となるものであった。

一方で、職員の執務エリアについては、原則として区議会議員であっても許可なく立ち入ることができない運用となっていた。本市において同様の制度を導入する場合には、議会と執行機関との関係性や日常的な連携の実態を踏まえ、慎重な検討が必要であると感じた。

庁舎整備の過程においては、新庁舎完成前にモデルオフィスを設置し、約 1 年間にわたって運用検証を重ねながら「庁舎ガイドブック」を作成したとのことであった。新たな執務環境や業務フローは施設を整備するだけで定着するものではなく、事前の試行と職員の意識醸成が極めて重要であることを改めて認識した。

また、庁舎建設には国の補助制度を活用しながら、多摩産木材を積極的に採用しており、地域資源の活用や環境配慮の観点からも先進的な事例であった。

さらに、庁舎移転後の効果として、業務効率化により職員の時間外勤務が 6 か月間で 18%削減されたとの説明があった。新庁舎整備は単なる施設更新ではなく、行政運営の改革や生産性向上に直結する可能性を持つことを示す成果であると感じた。

加えて、新庁舎を容積率等の条件の中で可能な限り大きく整備した理由として、将来的な行政需要の変化により庁舎面積に余裕が生じた場合には、民間への貸出しなども視野に入れているとの説明があった。人口構造や行政需要が変化する将来を見据えた柔軟な施設計画の考え方は非常に参考となった。

今回の視察を通じて最も印象に残ったのは、「オフィスは建てただけでは上手くない」という担当者の言葉である。中野区では、新庁舎完成後も運用状況の検証や改善を継続し、より良い執務環境と行政サービスの実現に向けて試行錯誤を重ねているとのことであった。庁舎整備においては、建設そのものを目的とするのではなく、その後の運用改善まで含めて不断の見直しを続ける姿勢が重要であることを学ぶことができた。

本市においても将来的な庁舎整備を検討する際には、建物の機能や規模だけでなく、窓口サービスのあり方、職員の働き方、デジタル化への対応、将来の行政需要変化への備えなどを総合的に検討し、市民サービスの向上と行政運営の効率化の両立を目指す必要があると感じた。

令和 8 年 5 月 1 4 日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 宇留賀 響

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察 令和8年5月12日(火)・13日(水)

視察先	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
及び	東京都中野区	市役所新庁舎建設について
視察事項		

この度の特別委員会の視察では、近年、市役所庁舎の建替えを実現した先行自治体として、東京都国分寺市・同中野区（訪問順）を訪ねました。

本市の市役所新庁舎は、令和7年11月26日に、特別委員会の承認を経て、建設基本計画改定版が策定されたところです。今後、基本設計の着手を目指し、設計施工業務の発注に向けた取組みを進めていく、という段階で、今回の視察は実施されました。このことを踏まえ、本視察で私は、次の2点に着目し、考察を深めたいと考え、現地に向かいました。

1 市民が集う場の設計と活用状況

本市が設計の中で検討を進めるとしている、「松本城・アルプスの眺望」「多目的に利用できる憩いの屋外空間」「オープンイノベーションを支える共創スペース」「協働を育む交流スペース」といった、市民が集い、活動するための機能及び空間を、両庁舎はどのように設計し、実現したか。また、開庁後、実際の市民の利用状況はいかがか。

2 旧庁舎跡地利用の計画と進捗状況

本市は本庁舎側敷地の将来の利活用について、今後取組みを進める、としているが、両庁舎では旧庁舎の跡地利用をどのように計画したか。また、現在、跡地利用に係る計画の進捗はいかがか。

以上2点について、両自治体に事前に質問を送付し、回答いただく中で、現地の視察を実施することも叶いました。以下、現地での所感と合わせて、報告します。

1 市民が集う場の設計と活用状況

まず、国分寺市に事前に送付した質問と、その回答は、以下のとおりです。

（質問）メインエントランスから東エントランスに抜ける途中に「多目的スペース」や「協働スペース」を配置し、東エントランスから都立武蔵国分寺公園に至る途中に「ぶんぶん広場」を配置することで、庁舎から公園までの動線上

に、市民が集い、活動する場を設けています。それぞれの場は、設計意図のとおり、機能していますでしょうか。また、これらの場と公園との連続性は生まれていますでしょうか。

(回答) 「多目的スペース」や「ぶんぶん広場」は、市の事業に関連したイベントで使用されています。お見込のとおり設計意図はありますが、特段使用上のルールを設けずに運用しており、様々な使い方を見出していきたいと考えています。開庁して1年が経過しましたが、様々な使用方法の問合せが増えてきたように感じています。例年は公園で行っていたイベントも、公園だけでなく、「ぶんぶん広場」や「多目的スペース」も使用して行いました。一方、公園側からも、市役所が出来て、利用者が増えたように感じる、とのお声をいただいております、相乗効果が生まれているとも感じています。

視察当日、「多目的スペース」や「協働スペース」が使用されている様子を確認することは叶いませんでしたが、多様な用途に応じるための間仕切りなど、設計に工夫が施されている様子を垣間見ることができました。また、東エントランスの北側には「本多図書館市役所分館」のコーナーも配置されており、その空間で過ごす方の姿をお見かけしました。事前質問の回答からも、市役所庁舎と都立公園との接続が円滑になりつつある様子が伺えます。本市においても、市役所庁舎と松本城公園を利用する市民が相互に往来するような動線を促す設計を、庁舎内の空間に対して施す必要性を感じました。

また、最上階の5階は、議事堂を中心に配置した議会エリアとして整備されていますが、その一角に「木漏れ日テラス」と名付けられた展望スペースが設けられています。東側の都立公園から都心部までを一望できるテラスで、腰掛けて憩うためのベンチを兼ねた構造物も設えられており、眺望を楽しむための空間として、十分な広さと機能を備えていると感じました。本市の市役所新庁舎建設基本計画改定版が掲げる

「新庁舎のあり方・導入機能」のひとつに「松本城と共に時を刻む庁舎」があり、その筆頭には「松本城・アルプスの眺望」と明記されています。さきの令和8年2月定例会では、「松本市役所新庁舎における眺望を楽しむための空間（展望スペース）の土日祝日及び夜間の一定の時間帯に限定した開放に関する請願について」、市内の高校生（当時）から請願がありました。本市においても、国分寺市役所新庁舎の「木漏れ日テラス」のような、市民が日常的に訪れたいくなる展望スペースの設置に向けた検討が、設計の中で進むことを期待します。

次に、中野区に事前に送付した質問と、その回答は、以下のとおりです。

(質問) 正面玄関から西側出入口に抜ける途中に「ナカノのナカニワ」や「シェアノマ」「ナカノバ」を配置し、西側出入口から中野四季の森公園に至る途中に

「ナカノのソトニワ」を配置することで、庁舎から公園までの動線上に、市民が集い、活動する場を設けています。それぞれの場は、設計意図のとおり、機能していますでしょうか。また、これらの場と公園との連続性は生まれていますでしょうか。

(回答) 各スペースでは日常的に区民主体のイベントや区が主催する各種イベントや講演会などが行われており、区が意図したとおりに機能していると考えています。例えば、「シェアノマ」では、公募によるワークショップ等を日常的に開催しており、来庁者が多くの体験に出会える場所として機能しています。「ナカノバ」と「ナカノのソトニワ」の間の超大型スライディングウォールを開放することで公園との連続性が生まれる設計ですが、天候に左右されるため、開放に適しているのは春や秋といった気候の良い季節に限られるほか、委託事業者による開閉作業が必要になるため、年に数回程度の開放実績となります。

視察当日も「ナカノのナカニワ」ではパネル展が開催されていて、「シェアノマ」も多くの方々に利用されていました。「ナカノバ」も、イベントこそ開催されていませんでしたが、多くの方が待ち合わせや休憩に利用している様子を確認することができました。庁舎内の屋内空間「ナカノバ」と、西側の公園へ誘う屋外空間「ナカノのソトニワ」との接続については、設備の構造上、オペレーションに課題を残している印象を受けましたが、それでも現地で実際の空間を確認するなかで、屋内外を一体の空間として活用しつつ、隣接する公園まで接続させる設計に、多様な活用方法の可能性を感じました。

中野区役所は、1階を「区民活動の拠点」と位置付け、大胆なフロア設計を実行していますが、そのほかにも、3階のキッズスペースや、最上階（11階）の屋上庭園など、区役所に手続き等の所用があろうとなかろうと、区民が立ち寄って過ごしたくなる空間が多様に整備されており、まさに区民のための「シティホール」としての庁舎を体現している印象を受けました。本市の市役所新庁舎建設基本計画改定版が掲げる「新庁舎のあり方・導入機能」のひとつに「コミュニケーションが芽生える庁舎」があり、具体的には「オープンイノベーションを支える共創スペース」や「協働を育む交流スペース」の整備が明記されています。こうした「市民活動の拠点」となるスペースの設置に向けた検討が、設計の中で進むことを期待します。

2 旧庁舎跡地利用の計画と進捗状況

まず、国分寺市に事前に送付した質問と、その回答は、以下のとおりです。

(質問) 旧庁舎の跡地利用に係る計画は、新庁舎建設計画と一体的に検討、考案されましたでしょうか。跡地利用に係る計画の進捗状況は、いかがでしょうか。

(回答) 新庁舎建設用地を東京都から購入する際の条件として、跡地の利活用について一定の方向性を示すことを求められたこともあり、令和３年３月には「現庁舎用地利活用基本方針」を策定しています。その後、新庁舎建設の後を追いかけて検討を進め、現在は「旧庁舎用地利活用事業」として、設計施工一括発注の契約を締結し、実施設計中です。

令和３年３月は、国分寺市役所新庁舎の基本設計に着手した時期と重なり、旧庁舎の跡地利用に係る検討も、早期から同時に進行していた様子が伺えます。「旧庁舎用地利活用事業」は、「複合公共施設整備事業」と「民間活用事業」のふたつの事業から成り、恋ヶ窪駅周辺エリアにおける人々の交流促進、にぎわい創出、利便性向上等を目的とした、官民連携事業として実施され、公募型プロポーザル方式によって、令和８年１月に事業者を選定し、同年２月には市民向けに「提案内容お披露目会」を開催しています。「複合公共施設整備事業」は、福祉センター、公民館、図書館、武道館、弓道場等、これまで周辺に分散していた公共施設を旧庁舎の跡地に集約し、多機能化を図る計画で、公共施設マネジメントの観点からも、有効な施策であるといえるでしょう。本市においても、こうした複合的な視点から、旧庁舎跡地の利活用に係る検討が進むことを期待します。

次に、中野区に事前に送付した質問と、その回答は、以下のとおりです。

(質問) 旧庁舎の跡地利用に係る計画は、新庁舎建設計画と一体的に検討、考案されましたでしょうか。跡地利用に係る計画の進捗状況は、いかがでしょうか。

(回答) 中野区では、中野サンプラザを平成１６年に雇用・能力開発機構から購入した段階から、旧中野区役所敷地と中野サンプラザ敷地を一体的に整備し、中野駅周辺を持続可能な中野を実現する拠点核として開発することを考えていました。その後の平成１８年に現中野区役所用地の一部について財務省からの払い下げが決まり、新庁舎の整備に至っています。なお、旧中野区役所と中野サンプラザ敷地については、平成３０年に街区再編の都市計画を決定し、土地区画整理事業と街路事業は事業中ですが、市街地再開発事業については、マスコミの俎上にも乗っておりますが、足踏みをしています。

中野サンプラザの再開発については、令和６年度、建設費の高騰等を理由に開発事業者が修正案を提示するも、区議会等の理解を得ることが叶わず、令和７年６月に区と事業者の協定が解除されています。これに伴い、旧区役所敷地についても、利活用の見通しが立たずにいます。中野区におけるこの事例は、新庁舎建設に伴う旧庁舎敷地の利活用について、一体的に整備する計画の範囲を慎重に検討し、適切に定める必要があることを示唆しています。本市においては、市役所新庁舎建設基本計画改定版

のなかで、本庁舎側敷地について、庁舎を建てず、松本城を核とした公共空間の整備に合わせて、新たな公共空間として整備・利活用を図ることを、基本的な方向性として定めたうえで、本庁舎側敷地及び松本城公園並びにその間にある市道を一体的な空間として整備・利活用することを見据え、具体的な取組みを進める、としています。が、一体的な整備・利活用を図る空間の範囲を、そのように定めた経過及び論拠について、市議会及び市民に対し、合理的かつ十分な説明が既に為されたとは、認識していません。空間の範囲と事業の規模を、適切に設定することが、極めて肝要であることを、中野区の事例から学び、今後、改めて、この懸案事項に係る説明及び協議の機会が設けられることを、期待します。

以上、「市民が集う場の設計と活用状況」及び「旧庁舎跡地利用の計画と進捗状況」の観点から、市役所新庁舎建設に係るこの度の委員会視察での学びについて、報告しました。

なお、上で触れなかった点として、中野区の事業方式から得た学びについて、書き添えます。中野区では、本市の計画と同様に、設計者及び施工者を同時に選定・発注する「設計・施工一括発注方式」を採用しつつも、基本設計は区が自ら行い、実施設計と施工を同一業者に発注したことで、発注者である区の意向を設計や仕様に円滑に反映させることができた、との説明を受けました。「設計・施工一括発注方式」には、基本設計を事業範囲に含める「基本設計一体型」と、含めない「基本設計先行型」がありますが、中野区の事例は、「基本設計先行型」のなかでも、基本設計を発注者が自ら担うケースです。現在、本市は「基本設計一体型」を検討していますが、中野区の事例に学びながら、「基本設計先行型」と「基本設計一体型」のどちらが、発注者の意向をよりの確に設計や仕様に反映できるのか、改めて比較検討する必要があると考えます。

今回の委員会視察を通じて両自治体から得た学びを活かしながら、今後、必要な熟議を重ねるなかで、本市の市役所新庁舎が、その基本構想で定めた建設理念「時代の先を読み、変化し続ける力を備えた、“ひと”や“まち”を結ぶ庁舎」を体現する、市民にとっての「私たちの市役所（OUR CITY HALL）」として、設計・施工されていくことに期待を寄せて、この報告を結びます。

令和8年5月29日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 菊地 徹

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

令和8年5月12日(火)・13日(水)

視察先

東京都国分寺市

市役所新庁舎建設について

及び

東京都中野区

市役所新庁舎建設について

視察事項

松本市役所本庁舎は昭和34年、東庁舎も昭和44年竣工と耐震性及び諸設備の老朽化が深刻な状況であり、新庁舎建設に異論を挟む余地はない。本市においても現地建替えて基本計画の見直しを経ていよいよ設計段階に入るが、今回の視察では先進自治体の取組みや供用開始後の反省を踏まえ、利用いただく市民の利便性向上と職員の働き方改革について参考にすべき点と、費用対効果において考慮すべき点を多々感じた。

1 東京都国分寺市役所（人口13万3千人）

国分寺市役所は、昭和38年に建設され、庁舎が市内各所に分散し耐震性の問題から、市民にとって不便で有事の際の機能も不十分であり、新庁舎を早急に建設する必要があった。「国分寺市新庁舎建設基本計画」（令和2年8月）を策定し、旧庁舎敷地より南に約2キロの公有地を購入し着工、令和7年1月6日より新庁舎の供用が開始された。

新庁舎建物は高さを25mに抑える必要があったため、階数を地上5階とし、必要な床面積を各階に振り分けた長方形の建物形状とした。市民利用の多い窓口機能を1・2階に配置し、市民の利便性向上を図っている。転入・転出などの手続きの際に、複数の窓口を回らなければならない市民の負担を軽減するために、「ワンストップ窓口」が導入された。3・4階は土木建設系部署や行政・企画部署などが配置され、災害発生時の対策拠点となる災害対策本部室と連携のとりやすい配置となっていた。最上階の5階には独立性を配慮し、議会施設を配置している。地下は免震層階高を活用した来庁者用駐車場とし、荒天時も雨風に影響を受けないアクセスが可能となっていた。

また、誰もが快適で利用しやすい庁舎とするため、ユニバーサルデザインを重視し、ピクトサイン、音声誘導案内、トイレの機能分散配置、クールダウン・カームダウンスペース（音と光を抑えた個室）等が導入されており、多様な市民の存在への配慮が随所に見られた。しかし警備会社負担とはいえ、セキュリティロボットの存在に疑問を抱いた。

新庁舎と隣接する都立武蔵国分寺公園との間には、多くの公共施設で見られるような塀や柵が無く、芝生の広場がゆるやかに庁舎へとつながり、公園と建物がひとつの空間として溶け合うような開放的な景観を形づくっていた。庁舎そのものが公園の一部であるかのような一体感が生まれており、市民の憩いの場であると同時に、地域コ

コミュニティの新たな交流の舞台にもなっているようだ。

国分寺市役所の視察を通じて強く感じたのは、普段は用事が無ければ足を運ぶことの少ない市役所だが、本市においては松本城を目の前に、一帯がふらりと立ち寄りたくなる公園のような場へと変わり、行政と市民の境界線意識が薄まることが重要ではないかということだ。このような視点を持ちながら、単なる行政手続きの場にとどまらず、物理的な垣根や手続きの煩雑さ、そして市民と行政との間にある心理的な壁を取り払うことを目指して設計された、「新しいかたちの市役所」が望ましいと感じた。

2 東京都中野区役所（人口35万4千人）

旧中野区役所は、昭和43年の竣工から約50年が経過し、施設や設備の老朽化を始め、業務の拡大・耐震強度等さまざまな課題を抱えており、改修ではその解決につながらないため、新たに庁舎整備を進めていく必要に迫られた。JR中野駅前には副都心新宿に近く中野区役所だけでなく、中野サンプラザをはじめ駅周辺が大きく再開発で変化をしており、渋谷駅周辺同様に「100年に一度の再開発」と言われている。新しい区役所は、近隣の区民体育館敷地跡地と都有地に令和3年度着工し令和6年5月に竣工、地下2階、地上11階、総事業費279億円で整備された。

平成26年に「新しい区役所整備基本方針」を定め、新しい時代にふさわしい区役所の整備の検討を始めた。区民との意見交換会や関係団体への説明を経て「整備基本計画」を策定し、新庁舎はICTなど技術の発展に対応した施設とするとともに、区役所での手続きや相談の窓口を集約し、区役所を訪れる方の利便性を高める設計がされた。

新しい区役所整備の基本的な考え方としては、①区内のあらゆる情報を収集・分析・活用し、新しい政策を作りだしていく区民サービスの向上、②区民活動の強化、③行政機能の強化、④開かれた議会の4つの機能と、①環境配慮型区役所の実現、②安全・安心の拠点、③施設の長寿命化を3つの性能と整理し整備された。

区民が主に訪れるフロアは2階・3階に集約され、「動かず・迷わない」窓口サービスを実現。フロア案内人と発券機の設置により窓口と執務室が完全分離され、待ち時間の解消とプライバシー及びセキュリティが向上している。誰もが利用しやすい新庁舎として随所にユニバーサルデザインが導入され、高齢者・子育て世代・障害者にやさしい設備となっていた。

中野区の目指すまちの姿として、令和3年に改定された基本構想「つながる はじまる なかの」に沿い、来庁者利便性向上のため各所に工夫が凝らされていた。区民交流や文化活動の場として、周辺地域とつながるにぎわいの拠点となる庁舎屋内イベントスペース「ナカノバ」や屋外に「ソトニワ」が整備され、毎日イベントが開催されている。1階はアートスペース、情報発信スペース、区民用会議室、来庁者や職員

はじめ近隣の在勤者・学生も集う魅力あふれるカフェが設けられ、連日大きな賑わいを見せている。土日・夜間はアルコールも提供されているというから驚きである。

より良い区民サービスを提供するために、職員のワークスタイル改革に向けた取り組みも工夫が見られた。職員間のコミュニケーション活性化が重要であるとし、物理的な間仕切りを極力なくしてフロア全体が見渡せる空間となっていた。課内での自由席を基本としており、ペーパーレスの徹底、什器・備品は共用して効率的な配置による空間の創出で個人が集中できるブースや、チームでのミーティングスペースの確保により職員の生産性・創造性が高められているという。デスクに固定電話も無く、多機能コミュニケーションシステムの導入により、1フロアで300人の執務室は静寂であった。また定員42名の議会階は協議会室、控室等も十分な数と面積が用意されていたが、議場の傍聴席から議員席が死角となって見えず、完成後に状況を知ったと反省の弁があった。

建設に当たっては実施設計と施工を一括して発注するDB方式を採用し、コロナ禍にもかかわらずコスト削減及び工期短縮が実現した。現在では倍近い総額になるという。

中野四季の森公園に隣接する位置に移転整備したことにより、公園との一体的な利用による区民の「つながり」と、隣接するサンプラザの敷地とともに、中野駅に直結する新たな賑わいの空間となるよう再整備を行う計画であり、新しい「はじまり」を予感できる大都市ならではの庁舎だと感じた。

本市の新庁舎の建設は、現在の庁舎が抱える老朽化・狭あい化・高さ制限の不適合といったハード的な問題や、利便性の低下、不十分なセキュリティ対策、社会情勢の変化への対応といったソフト的な問題を解決するために取り組むものであり、市民や職員の安全・安心を守り、サービスの向上を図るという目的のため、そのスピードを落としてはならない。視察した両庁舎とも大都市部にありながら、緑に囲まれたゆとりと豊かさを感じられる魅力ある施設であった。

時代が人口減少、建設費及び諸物価の高騰と大きな転換期を迎えている今、DX・デジタル化による庁舎の建設等を前提に、これからの時代に相応しさを見極め、質素ながら松本らしい「市民に身近な市役所づくり」の実現を急ぎたいと思う。

令和8年5月16日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 太田 正徳

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和８年５月１２日(火)・１３日(水)
視 察 先 及び 視察事項	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	区役所新庁舎建設について

１ 国分寺市新庁舎について

(1) 国分寺市について

東京の多摩地域の中央に位置。奈良時代に「武蔵野国分寺」が建立され歴史ある地。戦後、ベッドタウンとして都市化が進行。リニア新幹線や日立、補聴器のリオンなどの研究機関が立地する反面、野菜や果物などの農業も盛ん。人口１３万、面積１１．４６ｋ㎡

(2) 新庁舎について

ア 新庁舎建設に向けてのあゆみ

２００６年 昭和３８年に建設された庁舎の老朽化で、耐震強度の危惧、また５か所に分散化した庁舎の集約化
安全な場所への庁舎建設が決定

２０１９年 「国分寺市新庁舎建設基本構想」策定
現在の地籍に移転決定

〈選定理由〉

国分寺消防署や国分寺市医師会、防災対策本部になる
「いずみプラザ」、避難所となる「都立武蔵国分寺公園」が隣接。
災害時に拠点となりうる。

また、都有地を確保したことにより、旧庁舎も活用が可能。
公共施設の再配置も可能になる。

２０２２年 建設工事着手

２０２４年 竣工

２０２５年 開庁

イ 庁舎の特徴

- ・ワンストップ化、わかりやすい動線、待ち時間表示
- ・防災拠点機能、免震構造、消防防災機能との連携
- ・開かれた庁舎、市民交流スペース、小学生など市民が、気軽に立ち寄れる空間づくり、議場に親子傍聴席、隣接する武蔵野国分寺公園の市民イベントなどの活用
- ・木材の多用、多摩産材を多く使った温かみのある庁舎
- ・庁舎警備ロボット「ＳＱ－２」導入

(3) 所感

今回の庁舎は、消防署や保健センターに隣接しており。災害時に拠点となりうる点が重視されているのが顕著でした。もともと分散化されていた庁舎を集約し、市民サービスの向上を図っていました。

また、市民説明会やワークショップなどを重ねることで「市民が望む」庁舎を実現されていました。職員の休憩場所やクールダウンの場所を設けている庁舎は多く見受けられましたが、市民の方も普通に寛いで過ごされており、放課後の小学生がシール交換などをしていたりして、色々な場所で自由に寛いでいるのが印象的でした。

しかし、ワンストップ窓口が1階の横連携のみで、2階との連携に課題があるとのこと。ワンストップ窓口の難しさと共に、市民課と福祉分野は階層を分けるべきだと改めて感じました。

2 中野区新庁舎について

(1) 中野区について

中野区は東京23区の西部に位置し、新宿まで電車で5分の好立地。大学生や単身世帯の転入・転出が多く定着しないのが課題。

固定資産税や、住民税は都で一括管理し、上下水道、病院、職員採用は都が担っている、そのため、都内に住む職員は17%。面積は15.6km²（端から端まで自転車で30分）、人口33万人

(2) 中野区役所について

令和6年5月7日に開庁。地上11階・地下2階、延床面積が約47,200m²で約1,400人の職員が勤務している。また、都内自治体で初となる「ZEB Ready認証」を取得。デザインビルド方式で実施設計と建築を一体化。そのため予算を259億と大幅に抑えることができた。また、基本設計では44,200m²の予定であった（都市計画法変更により容積率450%に）

(3) 庁舎の特徴

ア 「つながる」を重視した庁舎づくり、市民とつながる1階づくり

1階にはイベントスペースや展示スペース、ワークショップスペース、カフェ等が配置され、市民交流拠点として活用されている。大きな窓は取り外すと、広場と一体になり、イベントに活用されている。

イ ワンストップ窓口と窓口・執務室の完全分離

「窓口」と「執務室」を完全分離

- ・セキュリティ向上
- ・来庁者の利便性向上
- ・床面積の効率利用

・ A B Wによる業務効率向上

「お客様は動かない」、「迷わない窓口」という考え方のもと、職員側が移動して対応する方式を採用

ウ 徹底したD X・ペーパーレス化

中野区では、3年半にわたりペーパーレス化を推進、また、T e a m s 電話導入、固定電話廃止など、どこにいても電話が取れる環境に。フリーアドレス制を導入し同じ席に座らない、個人の持ち物は共通のカバンで移動（キャビネットを設けない）、部長室も合同化

(4) 所感

「市民がつながる場」「職員同士がつながる場」「新しい働き方を実現する場」として整備されていることを強く感じました。特に、ワンストップ窓口、ペーパーレス・D X推進、市民交流空間に徹しており、庁舎ができるまで、モデルオフィスを3年間作り、3年間使い勝手や、仕様、家具などを吟味したなど、推進される方の強い熱意と意思があつての賜物だと感じました。

結果として、時間外勤務の削減、コピー枚数の大幅減少、在宅勤務利用増加などの成果が示されており、理想と現実が合致した姿でした

しかし一方で、日本でトップクラスの来庁者の多さは相変わらずで、多くの市民の方が待っている姿を見受けたのと、その方たちをアテンドする職員が多く、やはり最後は人なんだと感じました。また、静かすぎる職務環境、翌日は隣に誰がくるかわからないフリーアドレスは本当に働きやすい環境なのか、職員・議員間のコミュニケーションなど、実際に働いている方の声を聞いてみたいと思いました。

さらに、駅から徒歩6分、区内の一番遠いところからも自転車で30分という立地にありながら、駐車場50台では足りず、さらに近隣の駐車場を探していること。議場では、傍聴席から議員が見えないこと、実際に訪れる市民と窓口の数があっていないことなど、他山の石として本市の庁舎設計時に活かしていかないと感じました。

最後に印象的だったのが「大きく作っておけば、将来貸すことも可能」という発想が、目からうろこでした。

令和8年5月25日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 大久保美由紀

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和8年5月12日(火)・13日(水)
視察先 及び 視察事項	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	市役所新庁舎建設について

1 国分寺市役所について

国分寺市役所は都立武蔵国分寺公園と調和する「こもれびグリーン」をコンセプトに、小中学生の意見も取り入れ外装色が決定され、分散している行政機能を集約して良質な市民サービスを提供するとともに、災害時の拠点としても十分な機能を備え、市民の安全・安心の礎となる新庁舎を建設するため、「国分寺市新庁舎建設基本構想」を策定した。そして2025年に開庁した。行政サービスとして、1～2階に市民利用の多い窓口を集約し、手続きが1か所で完結する「ワンストップ窓口サービス」を導入し市民の利便性向上を図った。各フロアではまばらにせず、関連部局等をワンフロアに集約することにより市民が各フロアを移動せずワンフロアで完結でき、部局同士の連携がスムーズに進み質の高い市民サービスの提供が可能となっている。

2 中野区役所について

中野区役所では、窓口の利便性を高める「迷わない・動かない・待たない・書かない」に『行かない』を足し『なかのスマート窓口』の運用を開始。スマート窓口やデジタルサイネージを活用することにより、誰もがわかりやすい案内・誘導の構築がされ、市民が目的の場所を探しまわることがないような動線になっているのが特徴だ。また、新庁舎窓口では「セルフレジ」や「キャッシュレス決済」の利用ができ（民税、国民健康保険料、介護保険料や証明書発行手数料等の支払も可能）、担当窓口に行かずとも支払い等ができるので市民と職員の負担軽減に繋がっている。他では、業務改善で固定電話の廃止や、会議室や打ち合わせスペースにモニターを設置し、紙の資料を配らずにデータで共有する会議を標準化し他の市役所ではやっていない完全ペーパーレス化などの業務改善を行い、徹底した業務効率化を図っている。

3 所感

国分寺市と中野区を見て、「ワンストップ窓口」化を徹底し市民サービスと業務の効率化を図っていると感じた。特に中野区の「なかのスマート窓口」は先を見据えた取組みで、本市も参考にして取り入れるべきだと感じた。スマホやマルチコピー機での行政サービスを充実させ、市役所に行かなくても身近な所で行政サービスを提供できるシステムづくりが市民サービス向上にもつながると今回の視察で感じた。

令和8年5月29日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 西澤 郁弥

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和8年5月12日(火)・13日(水)
視察先 及び 視察事項	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	市役所新庁舎建設について

1 東京都国分寺市庁舎

人口約13万人 議員定数22人

(1) 庁舎概要／性能

地下1階、地上5階、敷地面積約12,623㎡

CASBEE（建築物の環境性能を総合的に評価し、格付けする日本の制度（建築環境総合性能評価システム）の最高ランク取得、ZEBレディ認証、免震構造

(2) 経過

昭和38年建築の旧庁舎が耐震強度不足等の課題あり、平成24年閉鎖、解体となり、行政機能が各所に分散化された。平成31年3月新庁舎建設基本構想策定、令和3年基本設計、令和6年9月竣工。分散化されていた機能は1か所に集約された。発注方式は設計施工一括方式、公募型プロポーザル方式。建設工事費98億円。コンストラクションマネジメント採用（委託先 明豊ファシリティワークス（株））

(3) 特徴

1階の広いロビーには、中央に総合案内が配置、国分寺のシンボルである7重の塔の模型が設置されていた。中央に待合があり左右両サイドに市民窓口エリア。マイナカード、住民異動、保険年金、スポーツなど、来庁者の多い部門が並ぶ。そのほか、情報コーナーや多目的スペース、コンビニなど、区民が使いやすいスペースが配置されていた。

2階は教育、福祉部門、3階はまちづくり、建設環境、防災、4階は政策、総務、5階は議会。木漏れ日テラスと名付けられた展望デッキで都心が見渡せる。

工事受注者の共同企業体から市内企業への発注総額は約29.5億円。

旧庁舎の不用品はフリマアプリで売却したり、譲渡会で市民へ譲渡。クラウドファンディングは令和6年5月から3か月間の受付で、団体個人合わせて538件、合計2,860万円寄付が集まった。

(4) 所感

新庁舎アイデアワークショップを11回開催、市民アンケートや懇談会で市民意見の聴取を行った。本市でも、改めて市民への説明会や意見聴取を行ってほしい。

来庁者が多い窓口機能は1、2階に配置し、中央に待合スペース、両サイドに執務室が配置されている。入口から最奥まで一定の距離があるため、足の悪い方や高齢者には負担をかけるかもしれない。

最上階の議会機能には、親子傍聴室や聞き取りにくい方への対策としての音響設備が整っていた。これは必須な機能ではないか。

最上階から街や遠くを見渡したいというのは、人の欲望である。本市庁舎にも、街や城、山を見渡すことのできる展望デッキ（スペース）を配置してほしい。

2 東京都中野区庁舎

人口約 33 万 4 千人、議員定数 42 人

(1) 庁舎概要／性能

地下 2 階、地上 11 階、敷地面積約 8,557 千㎡、延べ床面積 47,276 千㎡。環境性能 CASBEE ランク S、ZEB レディ、免震構造。在庁職員 1,400 人。発注方式は設計施工一括方式（基本設計分離型）、（株）日本設計によるアドバイス。平成 28 年新区役所基本計画策定（移転新築）、同 31 年基本設計、令和 2 年本契約、令和 6 年 5 月開庁

(2) 特徴

1 階は区民に開かれたパブリックスペースとカフェ、コンビニなど。2、3 階は各課専用窓口 4 階以上はフロア共用窓口。来庁者の多いフロアには、複数の案内人を配置している。

1 階の開口部のガラス（スライディングウォール）はフルオープンにでき、内外一体の利用可能。しかし天候に左右され、また、事業者による開閉作業が必須のため、使用頻度は少ないとのこと。交流事業やシビックプライド醸成や市ブランド向上にも資する。ワークショップやミーティングに使える部屋もある。土日夜間も使用可能なスペースがある。

窓口と執務室を分離するレイアウトとスマート窓口で、来庁者は「動かない、探さない、迷わない」（職員が動く）。メリットは、セキュリティ向上、快適性向上、床面積効率利用、業務効率 UP など。

徹底的なペーパーレス活動を 3 年半かけて実施。原則、紙はスキャンから 1 年後に廃棄。徹底的な電子化。キャビネット、ロッカー、書棚などが不要となる。

課内フリーアドレス制採用（部長・課長席無し、固定電話無し）し、貸与 PC 端末とヘッドフォン使用で固定電話不要。

クリアデスクを採用。デスク上には PC のみ。デスク周りや執務室に、張り紙や事務機器等を勝手に貼らない、置かないことを徹底。スッキリとした雰囲気。

DX 推進、Microsoft365 導入。テレワーク、ウェブ会議、どこにいても電話が取れる Teams 電話導入（固定電話廃止）、職員私物端末業務利用（BYOD）、チャットを活用

災害対策機能を常設しワンフロアに集約している。また、職員同士や来庁者とコミュニケーションが図りやすいレイアウト、スペースを確保している。

議会フロアは広いスペースで、屋上庭園もある。廊下やロビーにも広さにゆとりがある。駅前に位置するため徒歩での来庁もあるが、来庁者用駐車場に 50 台を完備

そのほか、執務スペースに配置されている集中ブース、防音ブース（通話用個室）、ミーティングスペースや、合同部長室、IC カードでの入退室管理など、新しい発想でのレイアウト、ブース、スペースが目立っている。

(3) 所感

2階以上の来庁者が「書かない、待たない、探さない」スマート窓口の様子を拝見させていただき、今の本市の窓口との動線の違いをリアルに知ることができた。待合スペースや窓口を共有することで、庁舎機能の効率的な配置ができるようになるだろう。待合、ロビー、廊下など、比較的ゆったりとした広さが印象的であった。これは、中野区庁舎は地下2階地上11階と、本市庁舎（地上4階）とは異なり、広大な床面積で設計されていることが主な理由だろう。

1階の区民に開かれたパブリック交流スペースは、本市の庁舎にも採用できたらよいが、最低限必要な庁舎機能を入れるだけで目一杯で、難しいだろう。よって、隣接の本庁舎敷地に交流や賑わい創出が目的のスペースを入れるのがよいと思った。

来庁者と行政職員が交差しない動線設計や、ICカードでの管理がセキュリティ上有効だとは感じるが、少々寂しいようにも感じる。全てをスマートにしてしまうと、人間味のある優しく暖かな対応ができにくいのではないか。見た目（壁の木質化や椅子ソファなどのファブリック、目につきやすい箇所のイメージカラー）を冷たいものではなく、あたたかさを感じる良い塩梅にしてもらいたい。

令和8年5月29日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 神津 ゆかり

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

令和8年5月12日(火)・13日(水)

視察先

東京都国分寺市

市役所新庁舎建設について

及び

東京都中野区

市役所新庁舎建設について

視察事項

1 東京都国分寺市

市役所新庁舎建設について

(1) 新庁舎の概要

令和7年1月6日開庁、事業費約148億5,000万円

敷地面積：12,623.72㎡、建築面積4,225㎡、延床面積21,786㎡

階数：地下1階、地上5階

構造：鉄骨造・鉄筋コンクリート、免震構造、建物高さ24.69m

(2) 階層計画

ア 市民利用の多い窓口機能は低層階（1、2階）に配置し、市民の利便性向上を図る。

イ 地下には来庁者駐車場を設け、雨天時も雨に濡れないアクセスを可能に。

ウ 災害発生時の対策拠点となる災害対策本部は、有事の際の迅速な対応のため、災害対策にあたる部署と連携の取りやすい3階に配置している。

エ 最上階に議会施設を配置している。

(3) 所感

事業用地を現地建替としなかったために移転直前まで通常業務が可能というのは、引越しが一度で済むことによる費用、住民サービスという面で大きなメリットであると感じた。発注方式を設計・施工一括方式としたことにより設計完了後工事発注手続きが無くすぐに工事着手となるメリットがある一方、本市においては地元業者参入をどのように担保するのかが大きな課題であると改めて感じた。人口が約12万8千人と本市の半分であり庁舎で働く職員数も1,000人と本市計画の約800人より多く延床面積も本市計画の約1.5倍と本市の敷地面積に合わせた計画が妥当なものであるのか、市民の皆さんに親しまれる新庁舎となるのか基本設計をしっかりと精査する必要性を強く感じた。

2 東京都中野区

区役所新庁舎建設について

(1) 新庁舎の概要

令和6年5月7日開庁、事業費約280億円

敷地面積：8,500㎡、延床面積47,200㎡

階数：地下2階、地上11階

構造：免震構造、高さ52.65m

(2) 中野区の目指すまちの姿

つながる はじまる なかの

ア 区民がもっと、つながる

新庁舎の1階は、区民がつながり新しい交流や活動がはじまる拠点に

イ 職員がもっと、つながる

オフィスは、職員がつながり新しい政策がはじまる拠点に

(3) 周辺地域とつながる、にぎわいの拠点となる庁舎

ア イベントスペース

(ア) 屋内

大型モニターを設置し、200人程度が収容可能。民間団体等に夜間・休日を含めて貸し出し。平常時は来庁者が自由に使用できる休憩スペース

(イ) 屋外

中野四季の森や屋内と連携したイベントを実施

イ アート展示・情報発信スペース

文化芸術の常設展、企画展などの実施

ウ カフェ

土日・夜間はアルコールも提供。来庁者や職員など利用

エ シェアルーム・ミーティングルーム

文化芸術活動、区民活動の場の提供

(4) 所感

自治体オフィスで全国初となる窓口と執務室を完全に分離することにより、セキュリティの向上、区民・職員の快適性向上、床面積の効率利用、ABWによる業務効率UPなど4つのメリットを示現するなど、区民・職員を第一に考えられた庁舎であった。特に印象に残っているのは、説明の職員の方が区民をお客様と表現しており、区民ファーストの考えのもと、区民に開かれた庁舎であり職員にとっても優しい庁舎であった。

本市の新庁舎も多くの市民が訪れそこで様々なイベントが開催され、物理的にも気持ち的にも広々と感じる市民目線での市民に愛される庁舎を第一に考えるべきと感じた。これまでの委員会では「設計で」との答弁が多かったので、今後示される基本設計等をしっかりと見極めていきたい。

令和8年5月15日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 川久保文良

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

令和8年5月12日(火)・13日(水)

視察先

東京都国分寺市

市役所新庁舎建設について

及び

東京都中野区

市役所新庁舎建設について

視察事項

1 東京都国分寺市

(1) 市の概要

人口 12.8 万人、東京都のほぼ中央にあり、市域の大部分は武蔵野台地の平坦地に位置する。奈良時代に武蔵国分寺が建立。戦前までは東京近郊の農村であったが、戦後ベッドタウンとして急速に都市化が進行。JR、日立、補聴器のリオン等研究所が多数所在。都市農業として「コクベジ」をブランド化している。

JR 中央線・武蔵野線、西武国分寺線・多摩湖線が縦横に走り、国分寺駅周辺には商業施設が建ち並ぶ。市域面積 11.46 km²、財政力指数 1.03

(2) 新庁舎の概要

令和7年1月 開庁

免震構造、地下1階・地上5階建

地下駐車場 60 台収容、車いす利用者用 3 台、思いやり駐車 2 台

タイムズ 24 株式会社が運営し、利用料 200 円/30 分（上限 1,000 円）で来庁者には減免あり。

1 階 市民窓口エリア

市民利用の多い市民課や納税課等の窓口部門をワンストップ窓口で配置。エントランスロビーには七重塔模型を設置し市の歴史を感じることができる。

2 階 市民窓口エリア

教育・福祉部門を集約。1 階からつながるエスカレーターでアクセスも容易。授乳室や幼児トイレ、幼児向け待合家具の設置など親子連れの利用に配慮

3 階 まちづくり・建設環境部門と防災拠点エリア

専門性の高いまちづくり・建設環境部門と防災安全部門を配置。有事の際の災害対策本部室を常設している。

4 階 政策・総務等内部管理エリア

政策・総務・広報部門と、正副市長室を配置

5 階 議会エリア

市議会議事堂を配置。議事堂には親子傍聴席なども設け市民に開かれた議会が行われる。また、都立武蔵国分寺公園から都心まで一望できる「木漏れ日テラス」を設け、だれでも自由に入れる。

(3) 所感

国分寺市新庁舎は、隣接する都立武蔵国分寺公園とつながる多目的な機能を持つ広場を有し、敷地周辺にゆとりを持たせた建物配置となっています。外観は「木漏れ日グリーン」をコンセプトとし武蔵野大地の周辺環境に配慮した落ち着いた表情が感じられるものとなっています。

庁舎は南北に長い長方形を基調とした箱型で、中央に広い通路をとり職員の事務スペースは通路を挟んだ両側に配し、南北の突き当りにトイレ、階段、エレベーターを配し非常にわかりやすい構造となっています。

窓口サービスの特徴として転入・転出・出生・結婚等に関する手続きについて、複数部署にまたがる手続きを集約するワンストップ窓口サービスを導入している。

また、1・2階待合フロアには発券機を設置しており、来庁者が来庁の目的を画面で選択すると該当する部署の窓口記号番号が表示された券が発券されます。

国分寺市民が誇りを持てる、市民目線に配慮した新庁舎だと感じました。

2 東京都中野区

(1) 区の概要

東京23区の西部にあたり武蔵野台地上に位置する。明治期に現 JR 中央線が開通し中野駅が置かれた。関東大震災後に宅地化が進展、戦後西武新宿線や地下鉄丸ノ内線の開通で人口流入が加速。現在人口密度は全国屈指、単身世帯が全世帯の半数を占め若い世代の比率が高く、定着しないのが課題。出張所は5か所あるがほとんどは本庁に来る。現在中野駅周辺の再開発事業が進行中。人口 33 万 3 千人、区域面積 15.59 km²

(2) 新庁舎の概要

令和6年5月開庁

免震構造、地下2階・地上11階建

庁舎敷地面積 8,500 m² 庁舎延床面積 47,000 m²

庁舎建設費 259 億円 （今だったら 600 億円程度との話も）

地下2階 業務用駐車場

地下1階 来庁者駐車場

1階 「区民が主役となる場」として区民交流スペース、食堂、カフェテリア、コンビニ、貸出可能な区民活動の拠点、アート展示スペース「ナカノのナカニワ」、「ナカノバ」と一体利用可能な屋外イベントスペース

2階 住民票、マイナンバー、戸籍、税、国保、年金

3階 子育て、高齢者、障害福祉

4階 くらし、生活相談、地域活動

5階 東京都第三建設事務所

6階 総務部、会議室、災害対策本部

- 7階 企画部、子ども教育部
- 8階 区民部、環境部、選挙管理委員会
- 9階 都市基盤部、まちづくり推進部
- 10階 議場、委員会室、区議会事務局
- 11階 議場、屋上庭園

(3) 新庁舎設計のコンセプト

耐震・環境・景観が調和した安全で環境にやさしい庁舎

ア 耐震

免震構造の採用により耐震性を向上させ、ライフラインが途絶しても、庁舎機能を5日間維持できるように備えている。

イ 環境

自然エネルギーの活用などにより高い省エネ基準を満たしたゼブレディー認証を都内自治体庁舎では初めて取得している。また、環境制御パネルにより日射負荷の抑制や周辺建物との見合い抑制を行い、環境性能を向上させている。

ウ 景観

建物の外側に取り付けた構造フレーム「トレリス」や環境抑制パネルにより木立の幹や枝葉を表現することで周辺の緑との調和を図っている。

(4) 所感

JR 中野駅北口側に屹立した高層建築物である旧中野サンプラザがあって、道路を挟み右後ろの位置に中野区新庁舎が建設されました。駅前の一等地にも関わらずよくこれだけ広い（8,500㎡）敷地が確保できたものだと感じました。

新庁舎ではペーパーレス、固定電話なし、職員の固定のデスクなし。区民のための窓口は2階・3階に統合されていました。フロアごとに各課の窓口を集約し、個別の窓口に行くことなく一か所で手続きができるように、窓口に来たお客様に対しては職員が移動して対応する新しいワークスタイルを採用して、申請手続きなどの区民サービスを大きく向上させていました。

新庁舎の建設に当たって、紙なし、固定電話なし、職員固有デスクなしのワークスタイルの大幅変更に踏み切った英断に感じ入った次第です。同時に職員がこのワークスタイルの変更に慣れるには結構苦労したとのことであるが、十分な準備時間と職員に対する念入りの意識改革の啓発が必要だと感じました。

令和8年5月15日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 上條 温

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和8年5月12日(火)・13日(水)
視 察 先 及び 視察事項	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	市役所新庁舎建設について

1 国分寺市役所

(1) 概要

「歴史と今と未来をつなぐ、地域に調和する庁舎」として、地域資源の活用と3つのデザインコンセプトを定めている。

1階は市民利用の多い市民課などの部門を配置し、ワンストップ窓口サービスを導入、2階はこども・教育・福祉部門を集約した待合フロア、3階は災害対策本部と建設部門が配置された防災拠点エリア、4階は政策・総務部門が配置された内部管理エリア、5階は市民に開かれた議会エリアで、議場は暖かみのある木質化を図り、国分寺市の豊かな自然を表現している。

外装の色彩は、市内小中学生を対象とした体験型プログラムで検討した「木漏れ日グリーン」をカラーコンセプトに決め、国分寺市の緑豊かな周辺環境に調和する景観となっていた。

安全性・耐震を確保するため免震構造を採用し、万が一のリスクに備えて資料室・主要設備機器は1階より上に配置、地下駐車場への雨水流入に対応できる配水設備を備えた。

屋上に太陽光発電設備を設置し、外装の日射遮蔽ルーバーや自然換気などにより省エネルギー化に努めた。

一次エネルギー消費量は基準値の62%を削減しており、多摩地域では初となるZEB Readyを取得。温室効果ガス排出量を実質ゼロとしている。

(2) 所感

来庁者が快適に施設を利用できるよう、色・素材等を統一し、ピクトグラムを用いたり、高齢者や車いすの方の目線に配慮した高さにサインを配置する等、ユニバーサルデザインに沿ったわかりやすいサイン計画は、目的の場所へのスムーズな案内を行うためにも必要だと感じた。

本市において新庁舎は職員にとっての事務所という位置付けであるが、市民が待ち望んできた庁舎でもある。国分寺市役所は、小・中学生や子どもが多くいる時間帯もあり、市民の皆さんに自由に使ってもらいたいというコンセプトからあまり制約を設けていないため、視察に来た方が驚かれているという話を伺ったので参考としたい。

将来にわたって多くの市民に愛される庁舎を目指して、新庁舎建設事業費の一部

にクラウドファンディングを活用し、多くの方の賛同を得て目標金額を大幅に超える結果となったとの話をお聞きした。慢性的な人材不足による労務費の上昇や、資材コスト・輸送費の上昇などから、今後もさらに建築費の高騰は続くと予測される。早い段階からクラウドファンディングを活用することで、より市民に身近な庁舎となるのではと感じた。

外壁のデザインやエントランス内のベンチ、駐輪場に描かれた葉っぱのペイントなどは、市内の小中学生が参加して制作したのとのこと。「新庁舎は国分寺市の未来を担う子ども達の思いが込められている。市民の皆さんと一緒に作ってきた国分寺市新庁舎がこれからずっとみんなに愛される場所となるように。新庁舎スタートです。」というPR動画を見て感銘を受けた。松本市新庁舎もぜひそうあって欲しいと感じた。

2 中野区役所

(1) 概要

1階は、区民がつながり新しい交流や活動が始まる拠点として、イベント時には全部開放したり、クローズが可能であったりと、色々な使い方ができる。イベントスペースナカノバ、アート展示・情報発信スペース、土日夜間はアルコールも提供するカフェ、公益性の高い団体に安く貸し出すワークショップスペースなどが設置されている。映画鑑賞会、投票所、夏休みの勉強スペースとして活用されており、地域貢献に繋がっていると感じた。

オフィスは職員が繋がることができ、新しい政策が始まる拠点として、最も先進的なオフィスとして整備されている。フリーアドレス制の導入、部長室を廃止して合同部長室を設置したり、テレワークの推進など、先進的なオフィスであると感じた。大きな廊下を廃止し、業務用の動線と来客用の動線を完全に分離し、夜シャッターを下ろせるようになったことでセキュリティが向上した。

来庁者が窓口を探して「迷わない」、次の窓口まで「動かない」、スマート窓口の設置で待合が一つとなり、受付けた職員から次の職員に、ある程度内容が引き継がれた状態で引き継ぐという、極めてアナログなやり方でのワンストップサービスが行われ、区民の利便性向上に繋がっている。

(2) 所感

3年半かけて徹底的にペーパーレス化に取り組んだ結果、紙が大幅に減ったこと、また移転前から新庁舎整備課職員が「ここだけ新庁舎」という空間を作り、その中で働いているところを職員見学ツアーを組んで公開していたこと、また「庁舎利用ガイドブック」（トラの巻）を1年間かけて作成して、職員にインプットしたことなどをお聞きし、新庁舎移転前からの入念な準備の必要性を改めて感じた。

固定電話の廃止、ペーパーレス、ワンストップ窓口、キャビネットの廃止等、他

に選択肢を与えないことが大事だという話をお聞きしたが、なかなか上手くいっていない現状を考えると、離職に繋がってしまうのではいう不安感を抱いた。一方で、残業時間が移転後 18%減ったことや、コピー機の印刷枚数が半分になったなど、成果に繋がる取組みであることがわかった。

庁舎が完成して終わりではなく、新庁舎に導入した様々な仕組みを職員の働き方の改善に結び付けないと、せっかく整備した庁舎が活きないという言葉をお聞きした。現在の取組みの定着を図りつつ、組織の連携が更に進む新たな仕組みの導入や、組織運営の改善を常に行っていくことの重要性を感じる有意義な視察となった。

令和8年5月29日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 中島 昌子

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和8年5月12日(火)・13日(水)
視 察 先 及 び 視察事項	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	市役所新庁舎建設について
1 東京都国分寺市役所 (1) 建設経過 昭和38年建設の本庁舎は、耐震性能の問題をはじめ、様々な利便性の低下で、職員にとっても執務環境に不満があった。新たな候補地は2か所、意見交換ののち和泉町に決定。基本計画は令和2年策定、翌年基本設計、令和7年1月開庁 (2) 新庁舎の特徴 ア 設計施工一括発注方式（DB方式） イ 豊かな自然を表現、木漏れ日も採用、自然が感じられる外観にしている。 ウ クラウドファンディングを活用している。 エ 災害対策本部を常設している。免震構造を採用、浸水の心配なし。 オ 重要な資料や主要な設備機器は2階以上に設置している。 カ 排水設備、屋上太陽光、外装ルーバー、省エネ、CO₂ゼロに。 キ デジタルサイネージを活用。 ク 多目的共同スペースなど市民にも利用できるようにしている。 ケ さまざまな利用者、全ての人に利用されるよう、ユニバーサルトイレ、子どもの思いも採用している。ルールを設けず、市民の皆さんに自由に使ってもらえるようなコンセプトにしている。 コ 地下駐車場などタイムズ24に管理委託している。コインパーキングもある。来庁者は駐車料金を減免、土日ともパーキング利用がある。 サ 3階以上は事業者が来る。 シ ワンストップを目指す。これまでの試行で横の連携はできるが、縦の連携が困難であることが分かり、見直し中。現在のところ横の連携でワンストップサービスを行っている。 ス 警備面は東急コミュニティに総合管理委託している。そこからの提案で警備ロボットを導入している。警備協会は応募がなく、夜間などは困難。人件費削減を目指す、人件費が削減できているかはまだわからない。 セ 議場は防音の親子傍聴室がある。演台が上下する発言席も。 ソ 40自治体から視察がある。 タ 国分寺市は職員数1,000人（正規600人、会計年度400人） (3) 松本市で参考としたい点 ア 市民の皆さんに自由に使ってもらえるようなコンセプト。		

- イ 自然の採光を利用、省エネにつなげている。
- ウ 子どもさんの意見も取り入れている。
- エ 議場のハイテクは時代の流れに合わせて。
- オ 親子傍聴席
- カ 様々な執務環境をそろえている。自席でなくても可能としている。
- キ 職員が安心して働ける機能がある。

(4) 所感

市民に開かれたコンセプトが先進的と感じた。子どもさんの意見も取り入れている点も素晴らしい。様々な執務環境をそろえている。自席でなくても執務が可能としている点は職員にとっても快適だと感じた。議場のハイテクも進化している。職員が安心して働ける機能に配慮している。

議会機能について、親子傍聴席は一般的だが、親子でなくても一人で傍聴したい場合も可能としたい。

2 東京都中野区役所

(1) 建設経過

老朽化による建設で、耐震・環境・景観が調和した安全で環境にやさしい庁舎として、周辺の緑との調和を図りながら建設される。旧庁舎から道路一つ隔てている。区の体育館と駐車場、隣接する国交省の土地を入れて建てる。

(2) 中野区の特徴

- ア 税関係、上水道は都が担っている。区立病院がない。
- イ 採用試験も 23 区でやっている、区独自でやらない。
- ウ 自転車で 30 分、面積は松本の 60 分の 1、人口 43 万、人口密度全国第 2 位
- エ 世帯数は 21 万、単身が多い、大学生、転出も多い。結婚で郊外に行く、定着しないなどの特性は庁舎の作りに影響している。
- オ 出張所が 5 つあるものの、あまり使われていない。本庁舎に来ることが圧倒的に多い。
- カ シビックプライドの点では、函館市は 9 割地元職員と言われているが、中野区は 17% 程度であるため、職員のシビックプライドが醸成しにくい。

(3) 新庁舎の特徴

- ア つながる、始まるが中野のテーマ、
- イ 土日夜間も開いている。1 階のみ、カフェでお酒を出す場合もある。
- ウ 職員が繋がることや、シビックプライドの醸成も重要視している。
- エ 延床面積はイオンモールくらい、今建てれば 600 億円かかる。
- オ 設計コンセプトのひとつとしてケヤキの木と葉をイメージしている。
- カ 白はカーテンの役割として採用、地震に強い斜めの梁、太陽光パネル設置
- キ ゼブレディ認証を都内で初めて取得。
- ク お客用と職員用の導線で分けて考える。

- ケ 5階は都庁の出張所、10、11階が議会、吹き抜けの階段を職員がよく使う。
- コ 1階はイベントスペースになる。壁は取り外せる。オープンにし、映画、投票所にも使える。団体に有償で貸し出し、半日4,700円で人気、イベント多すぎの苦情もある。
- サ ナカノのナカニワはアートなどで利用、今は直営、かつては民間だった。600円弁当は職員に人気。公益性の高い団体に貸し出している、日経ニュースオフィス賞を受ける。
- シ 窓口を探す必要がない、市民・職員どちらにも快適な役所を目指す。
- ス ペーパーレスは3年半かけてクリア、机上にパソコンとモニターのみとした。現在は問題なし。チャットのコミュニケーションツールで在宅勤務の人に対応している。個人の 아이폰 も使える、在宅勤務が増えている。管理職は強制、一般は自由。
- セ フロア案内人がいて、つないでいる。
- ソ セキュリティの面では、夜間に一般の人が入ってきていた。現在では、夜はシャッターで安心して残業できるようになった。17時で窓口を閉める事が理解されている。快適性が上がる。
- タ 税、国保、福祉はワンストップにならない。一日1,200人来庁する。2階は番号札が一つで良くなり、ワンフロアサービスまでできている。3階はあえてワンストップをやってない、障害の方は大きな音に敏感な人もいる。高齢者、子どものワンストップは都市型ワンストと言える。
- チ 待合室が一つで良くなった。職員と市民のトイレなど分けたので気を使うこともない、静かな環境、集中できるようになった。文房具の補充は障害者雇用の方をお願いして、社会貢献にも繋がっている。
- ツ 自席にいる事がなく、課内のフリーアドレス、将来的にはもっと広くフリーアドレスにしたい。どこで働いてもいい。残業は18%減る。浮いた時間で新しい仕事ができる。在宅勤務は4倍になっている。課長席、固定電話を廃止。
- テ 冷蔵庫はどこの階にも置くが、管理を誰がやるかを決めることが大変。テーブルの掃除など、誰が行うのか決めることが必要。執務室へは職員のみ、ヤクルトレディもピンクのストラップで出入り。
- ト 3階キッズスペースは定住につながるように特別な配慮をしている。自由に遊べる環境で、用事が終わってもゆっくりする人が多い。
- ナ モデルルームを作って働いてみた。
- ニ 庁舎利用ガイドブックを作成
- ヌ ペーパーレスの仕事場に慣れてもらうことがとても大変。旧庁舎から棚を持ってくるとかカレンダーを貼るとか引き出しを作るとか、禁止であることを時間をかけて注意した。新しい働き方になれてもらう。通知を出しても効果無し。ビデオメッセージも作ってみた。閉庁日に一斉調査、97%が綺麗になった。不定期で調査している。毎日別の机で仕事は管理職から率先して。黙ってると固定席にな

るので注意。

ネ 旧庁舎の跡地利用に関しては、1階の活動実績がある。大きなイベントとしてねぶた祭りと呼んでくる事が出来た。道路も封鎖して、台湾のイベント、選挙に使う。基本設計は直営でほとんどのことは決めた。免震構造など取り入れた。実施設計、施工は外部一括発注。先に金額を決めたのでゼネコンは割を食う。あくまで内部の職員が監査、外部の有識者に監督してもらう。

ノ 外壁の菱形は角度を変えている。平だとのっぺりする、表情をつけている。

ハ 職員食堂は要望の意見がなかった。今までもなかった。

ヒ 駐車場が少ないのが難点。まちづくりで考えていく。駐車場は地下に50台。

フ 暑さ対策として夏場のミストあり。太陽光発電は5%程度賄う。

(4) 松本市で参考としたい点

ア 将来的なペーパーレス化

イ 子ども、障害の方への配慮、音の配慮

ウ 市民に開かれた庁舎、1階のオープン化

エ 災害対応では免震構造・雑用水利用・排水機能・災害時発電。環境面では太陽光発電の他に日差しの制御・屋上と壁面の緑化・換気・地中熱を利用

オ ワンストップサービスへの模索

カ フリーアドレスの働き方

キ 部長たちの執務室という考え方

(5) 所感

徹底したペーパーレス化には正直驚いた。これだけ大きな組織で徹底することは大変だろうと感じた。フリーアドレスは松本市でも一部試行している。効果についてはまだ十分わからない。障がいのある方への配慮は高いレベルだと感じた。特に音に敏感な方への配慮が取り組まれている点だ。子どもへの配慮、授乳への配慮などさらに進化している。職員が住民から見えないところにいられる場所の配慮も必要だと感じた。住民に開かれた役所と言う考え方が広がり、1階を貸し出している点は思い切った取り組みと感じたが、役所の仕事に支障がないか少し心配した。議場の親子室は場所が高くて議員の様子が見えない点は課題があると感じた。建物全体の外観もなかなか思い切ったデザイン、太陽光発電もデザインに入れ込んでいる。ゼブレディ認証取得したうえでの対策としてできる事に取り組んでいる。全体的には非常に先進的な庁舎として学ばせていただいた。

令和8年5月30日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 犬飼 明美

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

令和8年5月12日(火)・13日(水)

視察先 東京都国分寺市

市役所新庁舎建設について

及び 東京都中野区

市役所新庁舎建設について

視察事項

1 国分寺市

(1) 概要

令和7年1月6日に開庁した5階建て庁舎は、1階北口には「天平」文化の七重塔の模型が飾られ、奈良時代の「聖武天皇」の国分寺由来の歴史を感じさせます。

市民ニーズをワンストップサービスとして、利用の多い部門を1階と2階に配置し、3階には建設防災関連、4階には内部管理部門を配し、5階に議会エリアと都心を一望出来る「木漏れ日テラス」を設け、自由に出入り出来るエリアとなっています。

ワンストップ窓口による各部門を集約するサービスを、より効率的に利用出来るよう、発券機で部署を選択し、発券された券による誘導が行われます。

また、移動の利便の為に、市民ニーズの多い、1・2階への誘導には、階段、エレベーターと共にエスカレーターも導入されています。

さらに、来庁者の気持ちを落ち着かせるカーム・クールダウンスペースや授乳室も設置されています。

駐車場は、地下に60台分用意されています。

また、庁舎前には、都立公園に繋がる芝生公園もあり、憩いの場所として市民利用が出来るようになっています。

(2) 所感

整然とした配置が見え、始まってからの、相談事情での配置換えもスムーズに行われた様子が見習うべき運用だと思います。また、そのような柔軟性と決断が短期間に出来る事が必要だと感じました。

多目的スペースや、木漏れ日テラス、ぶんぶん広場等に、市民が「居て良いんだ」という気持ちが芽生える空気を作る事が、開かれた市役所になるのだと思います。どことなく「やさしい」という雰囲気を感じられる空気感がありました。

2 中野区

(1) 概要

令和6年5月7日に開庁した地上11階、地下2階建て庁舎は、中央本線中野駅から徒歩6分の場所にあります。

「つながる・はじまるなかの」として、①人と人とがつながり、新たな活力が生まれ出されるまち、②未来ある子供の育ちを地域全体で支えるまち、③誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち、④安全・安心で住み続けたいくなる持続

可能なまち、以上４点を中野区基本構想として令和３年３月に改定制定しました。

中でも、「つながる・はじまる」としては、庁舎１階のナカノバ、ナカノソトニワで、区民がつながり、新しい交流や活動を創出しています。また、オフィスは職員がつながり、新しい政策がはじまる拠点として整備されています。

１階のナカノヤカフェでは、土日夜間はアルコールの提供もしています。シェアノマでは、文化芸術活動を中心にワークショップを展開しています。

来庁者の利便性のために４つのない「迷わない・待たない・動かない・書かない」で、スムーズに手続きを行い、プラスワンとして、オンライン上で手続きが出来る「行かない」サービスを拡充し、便利な「なかのスマート窓口」を開設しています。

建物の特徴として、トリレスと呼ぶ木の幹と木の葉を思わせるフレーム、ZEB Ready 認証を受けています。

１階から４階までに窓口業務を配置し、階段、エレベーターはもちろん３階までの市民移動が多い階までは、エスカレーターで移動の利便性を図っています。

オフィス業務は、DX を推進し、個人割は無く執務業務割での区分の中で働いています。窓口業務と執務室業務とは確実に分断されています。

(2) 所感

中野区では、窓口業務、執務業務の分立が徹底しています。また、執務形態も個人専用がほとんど無いように感じ、これが DX とか、AI なのかと感じさせられました。果たしてこの中で共同体意識が育まれるのか、現時点ではわかりません。

議会の会派控室には、給湯設備があり、利便性が図られていました。また、個人の執務机も並んでいました。その横に、松本市のような会議机と椅子もあり、かなりのスペースが与えられていました。

松本市は、会派控室として最低限の調度品が備えられているだけですが、今後の在り方として、執務机や、給湯設備の有無が問われるかも知れません。

3 全体を通して

市民窓口の在り方として、住民利便を考えているのが AI 時代の新庁舎における在り方だと感じました。

開かれた議会として、言論の府としての一切の開示が、個人情報との間でどこまでなされるべきなのか、議場や、会議室、会派控室設備の開放はどのように有るべきなのかを今回の視察で改めて考える機会になりました。

令和８年５月２６日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 太田 更三

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和8年5月12日(火)・13日(水)
視 察 先 及 び	東京都国分寺市	市役所新庁舎建設について
	東京都中野区	市役所新庁舎建設について
視察事項		

今回の視察に当たっては私個人の課題意識として、以下の8項目について関心をもって臨んだところです。

- (1) 通常の市民サービスの状況
- (2) 職員の執務環境
- (3) 市民活動スペースの状況
- (4) コンビニエンスストアの設置
- (5) 災害対策本部のあり方
- (6) 耐震構造
- (7) 議会施設の状況
- (8) 特徴的な内容

1 国分寺市

人口（128千人） 可住地面積（11.43 km²） 延べ床面積（21,000 m²）

- (1) 通常の窓口機能（サービス）を1階と2階に配置し、センター通路の両側に各課窓口が数多く並ぶ状態。当初1・2階を対象としてのワンストップ窓口を実施したが違う階との連携がうまくいかず、市民からの苦情が多くあったため、現在はフロア内での対応となっています。ワンストップ対応以外の窓口は数が多いため、発券機の活用で案内がスムーズに行われています。個別の相談室が1・2階で12か所設置されており十分な対応と思われます。
- (2) 壁や仕切りが殆どなく、見通しのいいフロアとなっており、他部署との連携が図りやすいと思われます。リフレッシュスペースも設置されています。
- (3) 1階に多目的スペース、協働スペースが設置されています。また、メインエントラス外には「ぶんぶん広場」があり、隣接都公園とも連携したイベントが開催されるなど有効活用が進んでいます。
- (4) コンビニエンスストアは入っています。
- (5) 災害対策本部が常設されており、発災時の迅速な行政対応が期待できます。
- (6) 災害時の拠点となるため耐震構造は免震となっています。
- (7) 議会施設はセキュリティ対策が取られており、一般市民の方が直接議員エリアに入ることはできません。議場には親子傍聴室が設置されています、また、傍聴者との議席の距離が近い作りとなっています（ここはどうするか議論が必要）。
- (8) 多摩地域の新庁舎として初の ZEB Ready 認証を取得しています。また、太陽光発電、実質再生エネルギー100%電力、カーボンオフセット都市ガスの導入で、温室効果ガス排出量を実質ゼロとしています。

また、来庁者がパニック状態となった際気持ちを落ち着かせる「カームダウン・クールダウンスペース」が設置されています（これまで訪ねた庁舎では初めて）。

2 中野区

人口（340 千人） 可住地面積（15.59 km²） 延べ床面積（47,000 m²）

- (1) 全国初の取組として、窓口と執務室が完全分離されています。但し、利用者が多い2階（戸籍住民課、保健医務課、税務課）及び3階（地域包括ケア推進課、障害福祉課、高齢者総合窓口、子ども総合窓口）は従来と同じ専用窓口対応となっています。その他の階は共用窓口となっており来庁者は窓口で同一階の複数課に要件があっても動く必要がありません。（本市でどこまで対応できるのか大きな課題）また、相談室も各階に多数設置されておりプライバシーへの配慮が感じられます。
- (2) 職員の執務環境は劇的な変化があります。来庁者と職員の専用コアスペースが分離したことにより業務に集中できること、基本的には課内フリーアドレスをとっており、連携がスムーズになっています。また、徹底したペーパーレスの推進もありデスク周辺環境がきれいになっています。更にはフレキシブルエリア、集中ブース、ミーティングスペース、防音ブース、休憩スペース等目的に合わせた設置となっています。
- (3) 200 人程度が収容できるイベントスペース「ナカノバ」、区民用会議スペース、カフェ、ワークショップスペース「シェアノマ」、アート展示・情報発信スペース「ナカニワ」、屋外イベントスペース「ソトニワ」といった区民利用スペースが充実しています（本市でのアイデアに期待）。
- (4) コンビニエンスストアは入っています（マストアイテム）。
- (5) 常設の災害対策本部はないが、直ちに対策本部に転換します。
- (6) 災害対策本部として免震構造としています。
- (7) 議会施設のセキュリティ対応はかなりしっかりとしています。
- (8) 部長室は合同部長室とし個別の設置はありません。2回/週程度の部長会議を開催し情報共有を図っています。ここでもペーパーレスとフリーアドレス対応となっています。また、完全ペーパーレス化したことにより、コピー機の印刷枚数及び在宅勤務の申請件数が劇的に変化しています。環境面では ZEB Ready の認証を取得しています。

3 所感

国分寺市、中野区ともに可住面積が極めて狭い中での庁舎であること、また、人口規模に対して広大な延べ床面積となっており、施設配置の参考にはならないが、機能の考え方としては参考となる部分もありました。

令和8年5月18日

松本市議会議長 阿部 功祐 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 近藤 晴彦